

探してみよう!

「歩道陶板」

切り絵制作：館上 然
陶板製作：(有) 沼田製瓦工場

おっとどり



サケの大助



ザシキワラシ



猫と浄瑠璃



笛と童子



池端の石臼



天 狗



白いきつね



「民話の道」とは?

「民話の道」は、バブル期（1986～1991頃）に竹下登内閣が行った「ふるさと創生事業」の一環で整備されました。「民話のふるさと」・「民俗のふるさと」としての遠野を一層充実させることが目的です。

整備までの経緯

平成元年（1989）	8月28日	遠野市ふるさと創成事業が決定
平成2年（1990）	2月21日	民話の道整備基本構想の決定
平成3年（1991）	3月17日	彫刻像現場設置（河童、ジャックと豆のつる、遠野三山、おやゆびひめ）
	5月10日	「民話の道」オープン式
	7月2日	彫刻像現場設置（雪女）
	7月23日	彫刻像現場設置（桃太郎）
	10月19日	陶板レリーフ現場設置（天人児）
平成4年（1992）	1月9日	陶板図柄制作委託
	3月25日	彫刻像現場設置（あかぎきん、獅子踊り、ふくろう）

きたごう さとる

①北郷 悟

1953年福島県生まれ。
東京芸術大学美術学部彫刻科教授

◆主な個展

- ・北郷悟彫刻展（ギャラリーせいほう）2008年
- ・北郷悟の彫刻（東京）2011年

◆受賞等

- ・天理ビエンナーレ大賞 1983年
- ・現代日本具象彫刻展 1992年
- ・東日本_彫刻優秀賞 2002年
- ・コンスタンティンブランクーシ大賞展奨励賞 2003年

たむら しろう

②田村 史郎

1947年岩手県生まれ。
1997年～2012年東京造形大学造形学部美術学科教授

◆主な個展

- ・1987年の個展から木彫を中心に制作発表
- ・田村史郎彫刻展（東京造形大学）2012年

◆受賞等

- ・岩手国体芸術祭 岩手県知事賞 1969年
- ・全国県展選抜展 文部大臣賞 1970年
- ・長野市野外彫刻賞 2014年

みねた よしろう

③峯田 義郎

1937年山形県生まれ。
東北芸術工科大学芸術学部美術科教授

◆主な作品

- ・地平線の午後 - 1980年 姫路市立美術館
- ・風私考—通り風 1980年 石神の丘美術館

◆受賞等

- ・神戸具象彫刻展特別優秀賞 1992年7月
- ・倉吉市緑の彫刻賞 1989年11月
- ・コンスタンチン・ブランクーシ賞大賞 2003年

なかの しげる

④中野 滋

1951年千葉県生まれ。
横浜美術大学教授

◆主な個展

- ・いわさきちひろ絵本美術館 1991年
- ・大阪阪急美術館 1992年

◆受賞等

- ・第17回昭和会展林武賞受賞 1982年
- ・第1回ロダン大賞展 彫刻の森美術館賞 1986年
- ・ADC賞受賞 1989年
- ・長野市野外彫刻賞受賞 2001年

いけだ むねひろ

⑤池田 宗弘

1939年東京都生まれ。1963年武蔵野美術学校彫刻科卒業。
1983年から1年間文化庁在外芸術家研修員としてスペインでロマネスク美術を研究。

◆受賞等

- ・第7回中原悌二郎優秀賞 1986年
- ・第18回長野市野外彫刻賞 1990年
- ・第6回神戸具象彫刻大賞展大賞 1991年
- ・第2回木内克大賞野外彫刻展大賞 1995年

あさい けんさく

⑥浅井 健作

1949年東京都生まれ。
桜美林大学総合文化学群准教授

◆主な個展

- ・個展「we are waiting」銀座ギャラリー 1992年
- ・個展「浅井健作展」箱と盆と中野土日画廊 2007年

◆受賞等

- ・第1回ハンズ大賞展準大賞 1984年
- ・第3回トリック・アートコンペ特別賞 1997年
- ・超感覚ミュージアム展銅賞 1998年

てるい さかえ

⑦照井 榮

1932年岩手県北上市生まれ。
1955年盛岡短期大学美術工芸科卒業

◆主な個展

- ・第2回彫刻の森美術館大賞展（彫刻の森美術館）1975年
- ・岩手県の作家自選展（盛岡橋本美術館）1977年
- ・探究する彫刻家たち展 1992年
- ・萬鉄五郎へのオマージュ・照井榮展 2000年

◆受賞等

- ・新制作協会展入選 1955年（以後毎回入選）

てつか とくお

⑧手塚 登久夫

1938年栃木県生まれ。
1989年～2005年東京芸術大学彫刻家教授
2015年 死去

◆主な個展

- ・個展 米田R I S D美術館 1985年
- ・退任記念手塚登久夫展 東京芸大美術館 2005年

◆受賞等

- ・サロン・ド・ブランタン賞 受賞 1963年
- ・長野市野外彫刻賞 1998年
- ・二科会 文部大臣賞 2000年

やまもと まさみち

⑨山本 正道

1941年京都市生まれ。
東京芸術大学彫刻家 名誉教授

◆主な個展

- ・いわさきちひろ絵本美術館 1991年
- ・日本近代彫刻の一世 茨城県立近代美術館 1991年

◆受賞等

- ・第5回平柳田中賞 1976年
- ・第5回長野市野外彫刻賞 1977年
- ・コンスタンティン・ブランクーシ賞大賞 2004年
- ・紫綬褒章受賞 2005年

〈作品の主題〉



赤ずきん (ドイツのグリム童話) 「森の抱擁」

病気のおばあさんへのお使いを頼まれた赤ずきんは、森で狼に出会う。赤ずきんが狼にそそのかされ寄り道をしている間に、先回りした狼はおばあさんを一飲み。おばあさんに化けて赤ずきんを待ち伏せる。そして訪れた赤ずきんも食べてしまうが、通りかかった猟師によって二人は助け出され、狼は腹に石を詰めて井戸に葬られた。

おやゆび姫 「ひなたぼっこ」

(デンマークのアンデルセン創作童話)

花から生まれた親指サイズの女の子がヒキガエルに誘拐されてしまう。魚に救出された後はコガネムシに連れ去られ、最終的にノネズミのおばあさんの家に落ち着くが、富豪のモグラとの結婚を強要される。そこで瀕死のツバメと出会い、おやゆび姫はツバメを介抱して結婚式当日にツバメと共に花の国へ逃げる。そこで王子と結ばれ、二人は幸せに暮らした。



天人児 (遠野物語拾遺第3話) 「天人児」

青笹村には昔七つの沼があった。そのうちの一つに「みこ石」という岩があり、それに六角牛山の天人児(てんにんこう)が衣をかけ、水浴びをしていたが、惣助という男がその衣を盗んでしまった。返すよう天人児は頼むが殿様に献上してしまった。そこで天人児は田んぼを借り蓮の花を育てて糸をとり、笹小屋を建ててそこで機織りを始めた(青笹という地名はここからきている)。織り上げた「曼荼羅」という機を殿様に献上し自分も御殿に勤めたが、土用乾しが行われた際に、例の衣を見つけ、手早く纏い六角牛山へ飛んで行ってしまった。曼荼羅は光明寺に納められ、綾織という地名の由来になったという。



ゆきおんな (遠野物語第103話) 「北風の舞」

小正月の夜、または満月の夜には雪女がたくさんの子を引連れ出てくるという。里の子どもたちは、夜までそり遊びに夢中になることがあるため、十五日の夜は早く帰宅するよう戒められた。しかし、実際に雪女を目撃したという者は少ない。



ふくろう (遠野物語序文) 「少年と鼻たち」

柳田國男による遠野物語序文末に記述されている短歌。

おきなさび飛ばず鳴かざるをちかたの森のふくろふ笑らんかも
(直訳: 年老いて飛びも鳴きもしない遠くの森のふくろが笑うかもしれない)



ジャックと豆のつる (イギリスの童話) 「天空へのみち」

ジャックは不思議な男から豆をもらう。豆を庭に植えると、翌朝、空まで届く巨木へと成長していた。豆の木を登ると雲の上の巨人の城に辿りつく。ジャックは巨人が寝た後、金の卵を産む鶏を盗んで地上へ戻る。これに味をしめたジャックは後日再び巨人の城に忍び込み、金銀財宝を奪い出す。しかしハーブを盗もうとした時、ハーブがしゃべり出して巨人が目覚ましてしまう。地上へ逃げたジャックは豆の木を切り倒し、追ってきた巨人は墜落死した。こうしてジャックは楽をして得た富には価値がないことを知り、まじめに働くようになったという。



桃太郎 (日本の昔話) 「We are waiting」

桃から生まれた桃太郎はきび団子を腰につけ鬼退治に出かける。途中出会った犬・猿・雉を伴にし、鬼との戦いに勝利をおさめた。鬼から財宝を奪い返し郷里のお爺さんお婆さんと幸せに暮らした。遠野にも「桃の子太郎」として伝えられている。



遠野三山 (遠野物語第2話) 「こだま'91」

女神が三人の娘を連れて来内村の伊豆権現の社に泊まった。その晩女神は、「今夜よい夢をみた者によい山を与えましょう」と娘たちに伝えた。夜半に天から靈華が降りてきて姉の胸の上に止まった。それを見た末の妹がこっそり自分の胸に置くと、最も美しい山・早池峰山が末の妹のものになった。姉二人はそれぞれ六角牛山・石神山を与えられ、今もそこに住んでいる。



しし踊り (郷土芸能) 「獅子踊り」

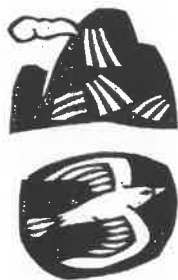
遠野では現在16団体が活動中。総数において神楽・田植え踊りと並んで上位を占めており、これは岩手県全体と共通する傾向である。主な構成はシシ・刀かけ・中太鼓・子通り・種フクベ等。幕踊り系が集中的に伝承されている。遠野物語にも古くから用いられてきた「橋ほめ」や「柱懸り」といった歌が書かれている。



河童 (全国/遠野) 「河童(それぞれの楽しみ)」

言わずと知れた遠野のマスコットキャラクター的存在。一般的には頭に皿、背中に甲羅、大きな口で胡瓜を好むというイメージを持たれている。遠野では語りや遠野物語に登場し、顔が赤いという特徴がある。詳しい生態は当センターが発刊した『遠野の河童』(博物館にて発売中!)に掲載されている。

「歩道陶板」の物語



おっとどり (遠野物語第 51 話)

「オットーン、オットーン」と夏に寂しげに啼く鳥。昔、ある長者の娘が別の長者の息子と親しくなった。ある日、二人で山に行った時、男が行方不明になった。どれほど探しても見つからず、ついに女はこの鳥になって「オットーン (夫)」と呼んでいる。



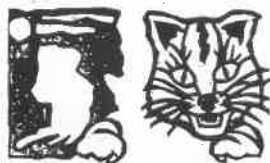
サケの大助 (聴耳草紙 98 番)

気仙で牧場を持っている男がいた。ある日、大きな鷲に子牛を攫われ、怒った男は牛の皮を被って弓矢を手に、大鷲が来るのを待ち続けた。しかし鷲に身体を掴まれ、玄界灘の離れ島まで運ばれてしまった。そこで出会った白髪の老人にわけを話すと、自分の背中に乗れと言う。聞くと老人は実は「鮭の大助 (おおすけ)」で、男の故郷にある川を上り上流で卵を産むのだと話した。そこで男は老人の背に乗り、気仙まで帰ることができたという。



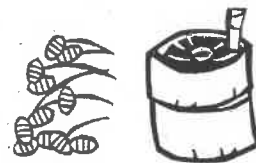
ザシキワラシ (遠野物語第 17.18 話)

ザシキワラシに住む家は隆盛し、いなくなると没落する。山口孫左衛門の家には童女のザシキワラシがいると言われていた。ある時同じ村に住む男が留場の橋のほとりで見慣れない女兒二人を見かけ、どこから来たのか尋ねると「孫左衛門の家から来て、別の村の某家に行く」と答えた。それから程なくして孫左衛門の家では7歳の女の子を一人残して全員茸の毒で死に絶えてしまった。



猫と浄瑠璃 (遠野物語拾遺 174 話)

是川右平の妻が留守番をしていると、飼っている猫が妻に、浄瑠璃を披露し楽しませた。このことは決して口外してはならぬと猫に言われたが、夫に話してしまい、翌朝妻は喉笛を掻き切られ絶命していた。同時に例の飼い猫も姿を消してしまったという。



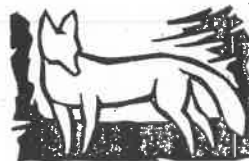
池端の石臼 (遠野物語第 27 話)

ある人が閉伊川の近くで女から手紙を託され、これを物見山中腹の沼にいた人物に届けてほしいと頼まれる。沼へ行くと若い女がこれを受け取り、礼として小さい石臼を貰った。この石臼は米を一粒入れて回すと黄金が出てくるという代物で、このおかげで家が大層裕福になった。ある時この家の妻が欲を出し、一度にたくさんの米を入れるると臼は自ら回りだした。その石臼は水溜まりに落ち、小さな池となった。



天狗 (遠野物語第 90 話)

松崎村に天狗森という山がある。ある若者が、その麓の桑畑で顔が赤い大男に出会った。突き飛ばしてやろうと相撲を挑んだが自分の方が飛ばされ、そのまま気を失ってしまった。その秋に村人達と萩刈りに行った帰り、その若者の姿が見えなくなり、後に深い谷の奥底で手足を抜き取られて死んでいるのが発見された。



白いきつね (遠野物語拾遺第 192 話)

六日町の鍛冶職人・松本三右衛門の家では、夜になるとがらがらと石が降ってくる。町の人間が見物に来たが、人がいるうちは何事もなく、帰った途端にまた降り始めた。ちょうどその頃、元町の小笠原という家の犬が御城下で狐を捕まえた。尻尾が二本に分かれていて、半分以上白くなっている大きな狐で、それ以降は松本家に石が降ることはなくなった。



笛と童子 (遠野物語拾遺第 2 話)

青笹村に笛が好き少年がいた。その子は継子で、馬放しの最中に継母から四方から火を放たれ、焼き殺されてしまった。この火の中で笛を吹きながら死んだ場所が今の笛吹峠である。